

U.S.Indicators

米国 ヘッドラインよりも内容は良い(15年5月ISM非製造業・総合景気指数)

発表日：2015年6月4日（木）

～非製造業部門は堅調さを維持～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM非製造業景気指数

	総合指数	活動指数	新規受注	雇用	入荷遅延	受注残高	仕入価格	新規輸出受注	輸入	在庫変動
14/09	58.1	62.0	60.5	57.8	52.0	52.0	55.2	57.5	52.5	52.0
14/10	56.9	60.5	59.3	58.3	49.5	51.5	52.8	53.5	56.0	49.5
14/11	58.8	63.4	61.0	56.3	54.5	55.5	55.0	57.0	53.5	55.5
14/12	56.5	58.6	59.2	55.7	52.5	49.5	49.8	53.5	50.0	50.0
15/01	56.7	61.5	59.5	51.6	54.0	49.0	45.5	52.5	46.5	52.5
15/02	56.9	59.4	56.7	56.4	55.0	53.0	49.7	53.0	51.0	54.5
15/03	56.5	57.5	57.8	56.6	54.0	53.5	52.4	59.0	55.5	49.5
15/04	57.8	61.6	59.2	56.7	53.5	54.5	50.1	48.5	51.5	51.0
15/05	55.7	59.5	57.9	55.3	50.0	48.5	55.9	55.0	53.5	51.0

(出所) ISM

**非製造業景気指数は
55.7と前月比2.1%
ポイント低下**

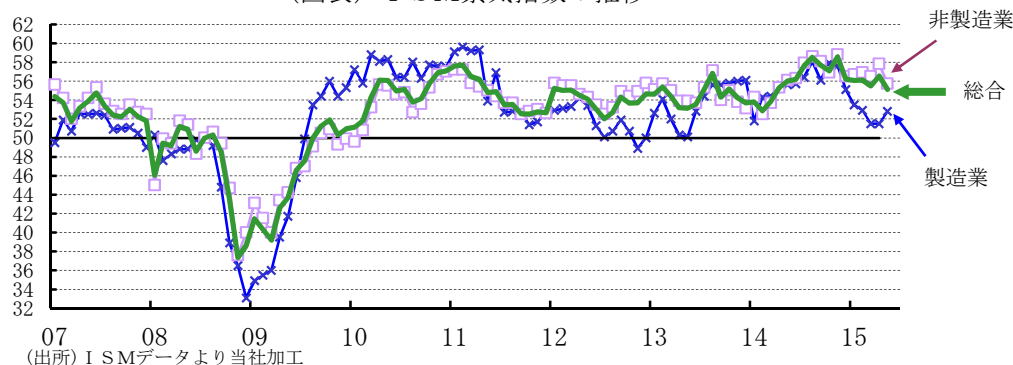
15年5月のISM非製造業景気指数（季節調整値）は、55.7と前月比▲2.1%ポイント低下し市場予想の57.0を下回った。総合指数の算出に使われる項目（活動指数、新規受注、雇用、入荷遅延）が全て低下した。総合指数への構成項目別の寄与度をみると、入荷遅延（前月比▲0.88%ポイント）、活動指数（同▲0.53%ポイント）、雇用（同▲0.35%ポイント）、新規受注（同▲0.33%ポイント）と入荷遅延が最大の押し下げ要因となった。

5月のISM非製造業景気指数は予想を下ぶれたものの、港湾ストの悪影響の減退で入荷遅延が低下した影響を受けており、非製造業の景況感はヘッドラインの数字が示すよりも良好と判断される。国内需要の堅調さを背景に活動指数、新規受注を含む総合指数の水準は高く、非製造業門の堅調さが持続していることを示している。また、拡大した業種数が全18業種中15業種（4月14業種）と広がりを持った拡大となっている。

**ISM総合景気指数
は55.1と景気の堅
調さを示す水準維持**

非製造業景気指数と製造業景気指数を合成したISM総合景気指数は、5月に55.1と4月の56.5から1.4%ポイント低下した。ISM総合景気指数は14年11月につけた58.6から低下しているものの、5月の55.1は景気の堅調さを示す水準。また、四半期でも1－3月期55.9、4、5月平均55.8と景気の堅調さを示す水準で推移しており、実質GDP成長率が示すほど経済情勢が弱くないことを示唆している。

(%) (図表) ISM景気指数の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。